

事務 事業名	コード1	12900	敬老大会開催事業	課 社会福祉課	社会福祉課			
	コード2							
施策 体系	基本方針	3	健やかでやすらぎのあるまちづくり	所属班	社会班			
	施策	4	高齢者福祉の充実		社会班			
	施策の展開	4	生きがいづくりの推進	電話番号	62-5317	内線	145	
	基本事業							
				予算科目	会計		款	項
				根拠法令	一般会計		3	2
							1	

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	敬老の日に市内3会場で敬老大会を開催。来場者に旭市文化協会・保育所等による演芸やお遊戯等を見ていただき楽しんでもらい、敬老思想を広めて、高齢者福祉の充実につなげる。 旭:2部(10:00～12:30、14:00～16:30) 東総文化会館 ①開会挨拶、②演目(演芸、お遊戯等) 海上:1部(10:00～14:30) 海上公民館 ①開会挨拶、②演目(演芸、お遊戯等) 飯岡:1部(10:00～14:00) いいおかユートピアセンター ①開会挨拶、②演目(演芸、お遊戯等) 【業務の流れ】 出演団体打合せ準備会 → 対象者へ案内ハガキ送付 → 会場準備 → 敬老大会開催

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.報償費	0
2.需用費	767
3.役務費	610
4.使用料及び賃借料	0
5.その他	0
【前年度比増減理由】台風の接近により、開催中止となったため。	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
事前準備 54時間 ・ 前日会場準備 56時間 ・ 大会中止対応 56時間	
参考(24年度の実績) 事前準備 54時間 ・ 前日会場準備 56時間 ・ 敬老大会開催3会場 392時間	

事業費	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
1.報償費	千円	280	280	0	280
2.需用費	千円	794	772	767	212
3.役務費	千円	643	610	610	689
4.使用料及び賃借料	千円	469	461	0	550
5.その他	千円				
事業費計(A)	千円	2,186	2,123	1,377	1,731
うち一般財源	千円	2,186	2,123	1,377	1,731
正職員員従事人数	人	0.25	0.25	0.08	0.25
延べ業務時間	時間	502	502	166	502
人件費計(B)	千円	1,908	1,908	631	1,908
トータルコスト(A)+(B)	千円	4,094	4,031	2,008	3,639

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) 台風の接近により、開催を中止。 発注済の菓子を出演予定の保育所と、市内高齢者施設へ配布した。	ア 敬老大会参加数	人	1,730	1,747	0	2,000
目的	26年度計画(26年度に計画している主な活動) ・市内3会場において敬老大会開催 ・パン・お茶の配布を廃止 ・アンケートの実施	イ 演目数	件	144	154	0	160
		ウ 演芸・遊戯参加者数	人	590	633	0	650
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	市内に居住する70歳以上の高齢者	ア 70歳以上高齢者数(各年度対象者数)	人	12,849	13,022	13,144	13,300
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	敬老大会に来場することにより、高齢者の交流を促進し、演目を楽しんでいただくことで長生きしてよかったと感じていただく。	ア 敬老大会参加率 (敬老大会参加数/70歳以上高齢者数)	%	13.5	13.4	0.0	20.0
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	イ 大会満足度(要参加者アンケート) (満足回答/回答総数)	%	-	-	-	90.0
	今後も生きがいを見出して、長寿で健康に過ごしていただく。	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
		ア 来年も参加を希望する割合 (要参加者アンケート) (参加希望数/回答総数)	%	-	-	-	90.0

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
合併前から旧旭市・海上町・飯岡町で実施しており、高齢者福祉の充実を図るため現在まで継続実施している。	・17年度に1会場で開催し、芸能人を招いたが、参加者数が少なく、地区懇談会でも地区開催の要望が多かったことから、18年度から現在の3会場で芸能人を呼ばずに実施をしている。 ・高齢者数は年々増加傾向にある。高齢者のみの世帯も増加している。	・敬老大会に参加した方からは、楽しませてもらった等の意見はいただいている。 ・車を利用できないため、送迎バスに乗りたくないが近場に停車しないので、利用できない方もいる。

事務事業名	敬老大会開催事業	課名	社会福祉課	班名	社会班
-------	----------	----	-------	----	-----

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】	敬老大会に参加し楽しんでいただくことで、敬老の日を健康で長生きするための生きがいの1つとしていただくことができると思われるため。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】	現状における高齢者の枠組み、参加者数、会場の収容人数などから考慮して適切だと思われるため。ただし、高齢化の進行や経費削減が求められるのなら、対象年齢の引き上げ等の措置が必要になる恐れがある。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】	各地区において規模を縮小して実施することも考えられるが、地区役員の負担の増加や、提供する演目数の減少による満足度の低下が考えられるので、参加者に対する成果を維持するためには市が関与して開催する必要があると思われるため。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】	近隣では実施している市は少なく(未実施：銚子市、匝瑳市。旧地区単位で実施：香取市)、参加率も高いとはいえない状況にあるため。ただし、参加者に対する成果が現状では判断がつかないため、アンケートを実施する必要がある。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☒ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】	演目の増加や、送迎バスの増便による移動手段の確保を行えば参加者の増加が見込めるため。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(合同金婚式、おたっしや会(社会福祉協議会)) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	統廃合を行うことでコストは削減できるが、それぞれの事業の本来の対象者に対する成果は減少する可能性が高いため。(敬老大会：70歳以上、合同金婚式：結婚50周年夫婦、おたっしや会：独居高齢者)
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】	対象者毎に案内通知を郵送しているが、広報や回覧板などによる周知で参加者を募ることで通信運搬費を削減できると思われるため。ただし、個別案内ほどの周知は望めなくなるなど、いくつかの弊害は発生する恐れがある。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】	開催会場を東総文化会館1会場にすることで、運営の効率化や準備等の人員削減ができると思われるため。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】	自家用車を利用できず、送迎バスにも乗車しづらい場所にお住みの方は、バスのルート変更や増便等がなければ参加が難しいため。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	成果や今後の方向性を見極めるためにも、アンケートの実施は必須と思われる。また、アンケート結果を踏まえて、会場の一元化など運営方法を検討していく。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可)		※2～3年後を目処にした方向性			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)
☐ 目的再設定	☐ 行政関与の見直し	☐ 事業統廃合・連携(関連事業:)			
☒ 事業のやり方改善による成果向上	☒ 事業のやり方改善による事業費削減	☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減			
☒ 受益機会の適正化	☐ 費用負担の適正化				
☐ 廃止・休止					
(2)改革改善案について		※いつまでに、なにを、どうするのか？			
いつまでに	なにを、どうするのか？				
①H26年から	①アンケートを実施し、今後の方向性を検討していく。				
②H27年から	②アンケート結果を踏まえ、成果向上や事業費削減に繋がる策を実施していく。				
③H29年までに	③会場の一元化、もしくは廃止などの結論を出し実現化させる。				
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策					
①アンケートの回収率に不安があるが、ご協力いただいた方の中から抽選で賞品を贈るなどの措置を行うことができれば、少ない予算で回収率を上げることができる。					
③会場の一元化や廃止などの大きな変更はご理解を得にくいため、数年をかけてアンケートを行い、市民と一体となって運営方法を考えていくことでご理解をいただく。					